

I 編 病理学総論

1章 病理学序論と病因論

1－病理学とは

病気（疾病 しつけい）の原因（ ）、発生機序、進展、（ ）を学ぶ。

1. 疾患の多様性と共通性

ヒトは生物学的共通性を有しているが、異なった（ ）構成に基づく個性を有し、人体に生じる疾患には多様な（ ）と共通性がみられる。

2. 疾病と病態

疾患とは、生体の（ ）から逸脱した状態。病的状態を（ ）と言う。診察や検体検査によって（ ）診断がなされ、（ ）診断は、確定的診断である。

3. 疾病の経過と転帰

疾患は、（ ）、発病、最盛期（極期）、回復期、慢性化、治癒の経過をとる。

治癒には、（ ）か（ ）がある。

組織や細胞の死を（ ）と言い、個体死を心臓死と考えるが、移植医療による救命への配慮から（ ）も個体死と考えられる。

2－病因論

病気の原因には、（ ）と（ ）がある。

1. 内因

1) 素因と体質

ヒトとして共通する素因と個人の特性である体質が挙げられる。

2) 内分泌異常・・・ホルモン産生する内分泌腺の機能亢進や機能低下

3) 免疫応答異常

2. 外因

1) 物理的因素・・・機械的力、温熱、電気、放射線等

2) 化学的因素・・・公害病や薬剤による医原病

3) 生物学的因素・・・微生物による感染

4) 栄養障害・・・栄養素の欠乏や過剰摂取